

# 農業委員会が大臣表彰

## 「農の広場」も全国2位に



二つの全国表彰を喜ぶ(左から)市農業委員会の福泉徳昭(広報編集委員長と秋山会長、布施市長、阿部清喜農業委員会事務局長)

市農業委員会(秋山耕会長)が、これまでの農業委員会活動が認められ、農林水産大臣表彰を受けました。

また、市農業委員会が発行する広報紙「農の広場」が、第20回「全国農業新聞農業委員会」よりコンクール(全国農業会議所など主催)で、最

優秀賞に次ぐ優秀賞に選ばれました。

4月22日、農林水産大臣表彰と農業委員会より優秀賞、二つの全国表彰の報告を布施孝尚市長にした秋山会長は「今回の受賞は大変光栄です。委員会や関係者の皆さんとこの喜びを分かち合いたい」と話していました。

# 新・登米ブランド認証

## 豚肉や加工品など6品目

市内で生産される農産物や加工品などを「登米の名産品」として市が認証する「登米ブランド認証制度」。本年1月の認証基準見直し後初となる商品に、豚肉やハム、みそ、日本酒、油麩、木工芸品の6品目・7商品が選ばれました。

4月8日に市役所で開かれた認証式では、布施孝尚市長

が商品を生産する事業者に認証書を交付。「新しく登米ブランドに認証した商品が、全国に登米市の魅力を伝えてくれることを期待します」と述べました。

新たな「登米ブランド」では、品質管理が徹底され、全国的な認知が期待できるものを認証することにしています。



リニューアルした「新・登米ブランド」初の認証を受けた事業者(左から3人目は布施市長)

# 自分たちの地域を守る

## 迫・新田駅前区で災害研修

迫町の新田駅前区自主防災互助会(石川法夫会長)では4月27日、災害研修会を開きました。

新田駅前生活センターで実施された研修会には地区会員約80人が参加。講師に日本気象予報士会の杉山公利氏、南三陸町の後藤清喜氏、市防災課の小野寺茂樹課長を招き、

災害時における自主防災組織の対応などを考えました。

「震災から3年が経過したが、災害に備えた具体的な活動はまだまだ」と強調する石川会長。「これからも機会を捉えて研修会や訓練を実施し、隣近所の付き合いの大切さを再認識していきたい」と話していました。



日本気象予報士会の杉山氏(右)から「局地的大雨などから身を守るために」をテーマに話を聞きました

# 迫町に新工場を建設

## スタンレー宮城と立地協定

本市中田町に工場があるスタンレー宮城製作所は、事業拡張に伴い市内迫町の市有地に新工場を建設する立地協定を4月11日、市、県と締結しました。同日、県庁で開かれた協定式では、スタンレー宮城製作所の熊谷重典社長と親会社であるスタンレー電気の平塚豊取締役、布施孝尚市

長、村井嘉浩知事が協定書に署名しました。

宮城製作所は発光ダイオード(LED)照明製品などを製造。新工場では、自動車の補修用ヘッドライトや後部ランプを製造します。新工場の敷地面積は約4万平方メートル。投資額は約38億円で、平成27年9月操業の予定です。

# 知事が復興現場視察

## 市民らと意見交換



多くの報道関係者が見守る中、東和砕石(東和町)で復興状況について説明を受ける村井知事(中央。左は同行した布施孝尚市長)

村井嘉浩知事が5月8日「みやぎの復興現場訪問事業」で本市を訪れ、震災からの復興状況について市民と意

見交換したり現場を視察したりしました。

県登米合同庁舎で行われた意見交換会では「被災者支援くささえあう地域づくり」と題し、農協女性部や市民活動団体の幹部など市内在住の女性5人と意見交換。出席者からは、震災時の対応や継続支援の取り組みなどが紹介されました。



新庁舎前で関係者がテープカットし、完成を祝いました

# 地域防災拠点完成

## 消防署南出張所が開所

老朽化により新築工事を進めていた市消防署南出張所が完成し、4月21日に開所式が行われました。現地で開かれた開所式には市や地域住民など関係者50人が出席。地域防災拠点の完成を祝いました。

旧庁舎を解体し豊里町十丁田内に完成した新庁舎は、鉄骨一部木造平屋建てで床面

積は496平方メートル。事業費の総額は2億4186万円です。豊里町と米山町を管轄し、署員15人が交代で24時間勤務に当たります。

布施孝尚市長は「完成した新庁舎を拠点に、従来にも増して地域に密着した消防行政が執行できることを確信しています」とあいさつしました。



震災時の対応や支援の取り組みについて、市内の女性5人と意見交換

現地視察では、肉用牛経営で県内一の規模を誇る日高見牧場(登米町)や、迫町の災害公営住宅の建設現場など3カ所を視察しました。